

3) 学生会

・工学部学生会の活動状況

2004年度に、工学部学生支援委員会の指導の下で、従来活動していた学科の学生組織を基にして、全ての学科・系に学生の自治組織である学生会が設立された。2005年度には、全学の学生委員会から出された「学生の公的組織化の要請」に基づき、各学科・系の学生会を統合した工学部学生会が組織された。この際、各学科の学生会代表が工学部学生会のメンバーとなること、および工学部学生会は、工学部(学士課程)の学生だけでなく、大学院自然科学研究科の工学系の学生も合わせて組織することとした。

2018年度の工学部学生会は、下表の各学科の学生会の役員によって構成され、工学部全体の会長を数理工学科3年生の牧野史弥君が務めた。近年3年生から役員を務める学科も増えてきている。

学科名	役名	氏名	年次
物性化学科	会長	森田 夏生	4
	副会長	慎改 豪	4
マテリアル工学科	会長	青山 拓実	4
	副会長	堀内 笙太	4
機械システム工学科	会長	川上 健作	4
	副会長	前崎 桃果	3
社会環境工学科	会長	脇村 真平	3
	副会長	尾前 佐知	3
建築学科	会長	塩崎 奈都子	4
	副会長	吉國 智子	4
情報電子電気工学科	会長	上村 斗真	3
	副会長	日高 蒔恵	3
数理工学科	会長	牧野 史弥	3
	副会長	田丸 和樹	3

各学科の学生会では、新入生歓迎会や研修会、スポーツ交流会、各種イベントなど学生の自主活動を促すための学生間交流や環境づくりが行われている。各科代表が集まる工学部学生会の会議は2号館学生支援室にて行われている。特に工学部運動会の運営については5月ごろから毎週火曜日の昼休み時間に話し合うなど力を入れている。また、秋季に開催される工学部長との懇談会では学科代表が出て日頃学生生活や勉学環境に対しての要望を出し、工学部での改善事項となっている。さらに学長との懇談会では工学部からは代表の数名が出席し、他の学部代表学生と共に大学レベルで取り組む必要がある施設、設備や大学のシステムについての質問と要望を出し、大学改善に向けて大学と学生の間で活発な議論を展開している。

・学生会主催による復活後第11回運動会

1952年10月26日に工学部グラウンドで新制大学の第1回工学部運動会が開催されて以来、熊本大学工学部運動会が開催されてきたが、年々参加者の減少は止まらず1999年の第47回運動会を最後に工学部運動会が中止された。

一方、工学部では学生の自治組織を育成するという大学の方針に従い、工学部学生会を積極的に支援してきた。運動会中止の決定の後、学生会はスポーツ大会等の企画・運営を行っていたが、2007年には運動

会再開の声に後押しされる形で、全競技を一日で行う集合型のスポーツ大会を企画した。その際のスポーツ大会の参加者は 200 名を超えており、この種のスポーツ大会のニーズが学生の中に十分にあることが確認された。そこで学生会は先輩の運動会復活の想いを引き継ぎ、復活第 1 回工学部運動会を 2008 年 10 月 25 日(土)に開催した。

2018 年度は実行委員を学生会会長の牧野史弥君、福会長長の情報電気電子 3 年上治智裕君と社会環境 3 年の尾前佐知さんが中心にまとめた。昨年度からの引継ぎを確実に行うよう留意して早めに武夫原グラウンドを確保し、例年の天候を考慮して昨年と同時期より少し早めの 10 月 6 日(土)に開催を決めた。つよい風雨のため前年度の大会は中止となったが、その時の中止発表の対応のまずさがかが問題となったため、開催・中止の決定時期や連絡体制について準備を整えて今年度の大会を迎えた。しかし不運にも台風が接近し、前日のうちに中止せざるを得ず、準備を進めてきた実行委員にとっては本当に残念であったが、安全を重視した決定は適切であった。長期間練習・鍛錬を続けてきた応援団より演舞を体育館で披露したいと申し出があり、3 団のうち 2 団の演舞が行なわれた。この様子は山水会で工学部長より披露された。

・学部長と学生代表の懇談会

仮設D棟1階 会議室Bにて 10 月 29 日(月)18:10-20:30 の 2 時間余り、学生会と工学部長との懇談会を実施した。学生側から学生会会長、学生会副会長 2 名および各学科学生会代表 7 名(数理工学科は工学部学生会会長が兼ねる)、工学部側から宇佐川工学部長、連川副学部長、藤吉副学長、教務委員長、学生支援委員長、各学科学生支援委員、工学部教務担当係長の 13 名が参加した。

昨年に引き続き、まず懇談会実施前に学生会より提出された〈要望・提案〉に学部長を中心とする工学部教員が回答する形で懇談会が進められた。その後、参加者による質疑応答や意見発言などの自由な意見交換があった。

まず、多くの意見が出されていたターム制について質疑応答が行われた。「ターム制のメリットの一つである留学や課外活動が自由にできる期間が確保できていない」ことについての意見に対しては、「現状のカリキュラムでは難しい学科もあるかもしれないが、現在大学院で実現している専攻もあるので、長い目で見て考えて欲しい。ターム制には学習効果を高める効果があることも理解してほしい。」の旨の回答がなされた。また「授業の構成が分かりにくく履修しにくかった」ことについては現在セメスター制からタームへ制の移行期であるので不便な面が生じているが移行が進めば解決する。数理工学科のように他学科の授業構成が影響するところにはできるだけ配慮する。」との回答。その他卒業研究に TOEIC 試験 450 点以上が要求される件、2 号館の出欠管理システムの件、授業改善アンケート件、カンニング防止体制、教養授業科目が抽選で決まる件、成績入力時期の件、設備(エアコン、自動販売機、WiFi、駐輪場、駐車場、喫煙所、街灯、USB 入力できるコピー機など)の整備に関する意見が学生から出されたが、学生の認識不足の点、教員側で改善努力を要する点、工学部では直接実現できない件には他部局・機関に要求する点などを含む状況説明が十分になされ、学生からの理解を得た。

最後に副学部長より、「学生の皆さんからのご指摘・ご要望については、学部としてできることから善処・対応していきたい。大学は教員と学生で作上げるもの、学生からの要望に対しては、教員として真摯に受け止める。学生も要望するだけでなく、学生として必要なことを真摯に対応してほしい。お互いの理解を深め協力しながら素晴らしい大学を作り上げたい。」との言葉でまとめられた。